



2007年6月10日  
第3号  
発行  
日本共産党  
村山地区委員会  
山形市小白川町  
4-13-15

# 麻しん（はしか）対策で 民医連が県に緊急要望

6月4日、山形県主医療機関連合会（伊藤英三会長）は、麻しん（はしか）対策に係わる要望を行い、渡辺ゆり子県議も同席しました。要望書では、「麻しん感染が広がっているが、県内医療機関にも問い合わせが相次ぎ、ワクチンや抗体検査薬の供給不足など、対応に苦慮している」として、ワクチンや抗体検査薬の十分な供給、医療機関職員も含めて接種者への費用補助、県民に対する情報や感染予防の周知徹底などを求めています。また、「現在、学校等を通じて未接種、未罹患（麻しんに感染していない）率などについて調査集計を行っている」ことを明らかにしました。

「県内で21人の感染者があり、15人が15歳以上である」と状況を説明しました。また、「子どもの時の定期接種を基本と考えており、任意接種の費用補助は現状では考えていない。混合ワクチンは、増産体制に入っており、小児科に在庫もあつて足りる状況と判断している。片寄らないよう関係機関にも要請している」と答



民医連の緊急要望に同席する渡辺ゆり子県議（右）

行けず日本語も話せないし、中国語も書けない。天童の仲間が、国の方針で減らされることになっていいます。私の亡くなった父も少年義勇軍で満州に行つた経験があり、

国帰国者の支援の役割を果たしてきましたが、国の方針で減らされることになっていいます。私の亡くなった父も少年義勇軍で満州に行つた経験があり、

## 県内中国残留孤児への支援策を後退させないで 自立研修支援センター閉所に対して交渉

日中友好協会（高橋幸喜事務局長）から、「山形県中国帰国者自立研修支援センター」が六月で閉所されることになり、関係者が困っている」との話聞き、日本共産党県議団は5月18日、桜田にある研修センターを調査しました。また、21日、中国残留孤児の関係者16人が、小倉祐治・健康福祉企画課 援護・指導室長らに実態を訴え懇談しました。「戦後、学校にも

年金もなく生活保護になつた。制度がおかしい」「役場には相談窓口がない。中国残留孤児は差別され、住宅も困っている」など、中国語の通訳を介しながらも懸命に訴えました。小倉室長は「今後必要に応じて話し合います」と約束しました。自立研修支援センターは、日本語教室や交流、相談など中

### 参院選勝利めざす 日本共産党演説会に9000人

3日、参院選勝利めざす日本共産党演説会が開催され、渡辺ゆり子県議もあいさつしました。

7月22日投票の参院選の佐藤まさゆき選挙区予定候補、比例代表候補の紙智子参議院議員に加え、小池晃（参議院議員）党政策委員長が弁士に立ち、それぞれ政策を力強く訴えました。渡辺県議は、県議席獲得のお礼を述べるとともに、県内地方議員を代表し、参院選勝利に全力を尽くすことを表明しました。

